

## 要 旨

**目的：**急性期脳卒中患者に対する看護師の【口腔ケア】および病棟の【口腔ケア方針】の現状を明らかにし、その関連について探索すること、さらに肺炎発症率と【口腔ケア方針】との関連について検討することを目的とした。

**方法：**日本脳卒中学会認定研修教育病院 740 施設を対象に、急性期脳卒中患者が入院する病棟の看護管理者を対象とした【口腔ケア方針】に関する質問紙調査と、その病棟に所属する看護師を対象とした【口腔ケア】に関する質問紙調査を実施した。さらに口腔ケアに全介助を要する急性期脳卒中患者の入院 2 週間における肺炎の有無を追跡調査してもらった。

**結果：**質問紙には 111 施設の看護管理者と 962 名の病棟看護師から回答を得た。看護師の【口腔ケア】では、「観察」と「技術」、「技術」と「評価」との間に強い正の相関が認められた。看護師が最も「観察」していたのは嚥下であるが、＜誤嚥予防＞の「技術」としての体位調整はあまり実施されていなく、マッサージはほとんど実施されていなかった。最も「観察」していなかったのは歯肉であり、歯肉出血時にブラッシングを控える看護師が多かった。【口腔ケア】との関連では、専門看護師や認定看護師などの資格があり、口腔ケアに関するチームに所属している看護師の実施度が有意に高かった。病棟の【口腔ケア方針】では、マニュアルやアセスメントツールがあることが、看護師の【口腔ケア】の実施度と関連していたが、それ以上に、マニュアルをよく理解し実践する看護師の姿勢が大きく関連していた。約 7 割の看護師が忙しさを感じていたが、口腔ケアを重んじている雰囲気や、スタッフ間の協力があると感じていることが【口腔ケア】の実施度に関連し、体験型学習を含む勉強会への参加経験が大きく関連していた。また、歯科医師らにより専門的口腔ケアが実施されていることが、【口腔ケア】の実施度と関連していた。肺炎発症率の調査では、47 施設の回答のうち追跡患者が 10 名以上であった 18 施設の病棟の【口腔ケア方針】は、肺炎発症率が高い施設ほど整っていることが示された。

**結論：**急性期脳卒中患者に対する【口腔ケア】として、＜誤嚥予防＞ケアとしての体位調整やマッサージ、＜細菌数低下＞ケアとしての歯周病予防ケアの課題が見出された。肺炎発症率との関連については、追跡患者が少なく【口腔ケア方針】との関連を探索できなかったが、看護師の【口腔ケア】の実施度を高めるには、専門看護師や認定看護師、口腔ケアに関する院内チームに所属する看護師などが中心となり、病棟全体で活用しやすいアセスメントツールやマニュアルの検討を行い、＜誤嚥予防＞や＜細菌数低下＞を目的とした【口腔ケア】の体験型学習会を実施すること、歯科と連携することにより、病棟全体で口腔ケアを重んじる組織風土が醸成され、看護師の【口腔ケア】の実施度が高まることが示唆された。